TOPICS

退職に寄せて

品川　森一（前プリオン病研究センター長、平成17年12月31日退職）

３年３ケ月勤務した動物衛生研究所プリオン病研究センターを退職して早くも３ケ月半が過ぎました。ただ今、晴耕雨読･晴釣雨読の準備に追われてサンデー毎日ののんびり生活とはほど遠く、センターでの生活ははるか昔のことのように感じられる今日この頃です。このような状況下で、動物衛生研究所に在職中の思い出を書くことが残っていると言われました。正確に思い出す努力を放棄してしまい、印象だけで極めてあやふやでいい加減なことを書くことを先ずお断りしておきます。

プリオン病研究センターが平成14年10月１日に発足したのに合わせて、該センターの初代センター長として３年間の任期で着任しました。１年半ほどの間借と新築の動物衛生高度研究施設での期間合わせて３年３ケ月間（後任の方のご都合で３ケ月延長）は無事とはほど遠い多事多彩で驚・羨・怒・諦などの入り交じった濃密な時間でした。研究所では研究に従事される先生方の個人の評価が行われていることは新鮮でした。しかし、評価作業が繰り返し、繰り返し数ケ月も続くことは脅威で、評価がどの様に生かされるのか最後まで見えませんでした。大学では教育と共に、科研費初め各種外部資金の獲得に直接影響する論文発表などに追われ、自転車操業を行う零細企業の社長のような生活でした。しかし、ここでは研究費に余裕がある所為かかなりの先生方の歩き方まで優雅でゆったりしていると感心したものです。研究センターのスタッフは若手が多く、大いに自発的な研究を期待し、また期待に応えてくれようとしたが、論文書きまでを全ての人に期待するのは無理でした。専門領域以外に周辺領域の勉強不足と私の力不足を痛感した次第です。

プリオン病研究センターの活動拠点となる研究施設は、BSE発生に伴って我が国の動物プリオン病研究実施のための建物として予算が付いたと聞いております。設計段階から他人の褌で相撲をとるごとく動物プリオン病研究以外の研究も想定した施設であり、「あゝ、相変わらず貧困であるな」と感じておりました。BSE感染牛を発症まで該建物に閉じこめて飼育すると言う計画であったものを、全てではないまでもかなりを、開放的な建物に何とか移すことが出来たことは牛のためにも極めてよかったことと思います。また、摘発されたBSE感染牛の特定危険部位以外にもプリオンの蓄積があることをセンターのスタッフが明らかにしたことは大変誇らしいことです。ただ、行政はこの知見に極めて冷淡であり、また担当研究者が論文にする意欲が無いためか、ドイツの研究者に論文発表の先を越されたことは誠に残念でした。「BSEの研究はバブルだ！バブルがはじけた時に生き残れるように稼げ！」「研究所は研究をするところだ！笛を吹いたら踊れ！」「給料分は真面目に仕事をしろ！」「１日は24時間、１年は365日しかないんだ！」等々と心の中で叫んでいたことを思い出します。実験感染牛が発症したら是非見学させていただきたいものです。今は久しぶりの受験（小型船舶免許）が近づくのを気にしながら、潮風に吹かれるトマトやナスの苗のため防風ネット設置に土方仕事で汗しております。

最後に皆様のご健闘と研究所の発展を祈ります。

品川森一氏におかれましては、平成18年４月29日春の褒章にて紫綬褒章をお受けになりました。
お喜びのことと拝察いたします。

情報広報課